

強気の価格、国内客敬遠



1～6月81.6%

稼働率1.5ポイント低下

ハイペースで増える訪日外国人客の恩恵を受けてきたホテル業界だが、足元では勢いが鈍りつつある。日本経済新聞社がまとめた東京都内の主な18ホテルの1～6月の客室平均稼働率は81・6%となり、前年同期より1・5ポイント低下した。満室の状態が予約がとりづらいつらとされる80%台は維持しているが、日本人の客足が遠のくといった変化も指摘される。

18ホテルのうち、12施設は稼働率が前年同期比でマインナスだった。80%以上は15施設、80%未満は3施設だった。京王プラザホテル（新宿区）は83・1%と3・5ポイント低下、品川プリンスホテル（港区）は85・6%と1・2ポイント下がった。客室平均単価では、パレスホテル東京（千代田区）で16%、品川プリンスで14%上昇した。10%超の上げも目立った。

18ホテルの6月の稼働率は80・8%と前年同月に比べて0・6ポイント下がった。マインナスは5カ月連続。18ホテルのうち、11施設が前年を下回った。

単価上昇はホテルの稼働力を高めている。ただ、国内客が宿泊を思いとどまったり、郊外ホテルに流れたりする例も出てきたという。